

おうちの中で楽習保育®の環境を

つくってみよう！

子ども主体のおそびを導く環境づくり
～ラーニングセンター編～



みなさんは、家庭内で子どもの遊ぶ場所をどのように設定していますか？
ラーニングセンターは、子どもの興味や発達を促し「子ども主体のおそび」が展開出来る環境設定です。

今回は、ご家庭でできる楽習保育®環境の作り方をご紹介します。
子どもの主体的なおそびを導く環境は、お家でも少しの工夫で実現できます。
実際に各ご家庭で導入されている実例も併せてご紹介します。

子どもが遊びたくなる環境は？

1 おもちゃを並べて置いてみましょう

箱や籠の中に入れておもちゃを置くのも良い方法ですが、おもちゃを並べて置く事で、子ども思わず手にとって遊んでみたくなります。



2 テーマごとに分類してみましょう

色、形、動物の種類など、分類をすることで、「あそび」ながら、「まなべる」楽習環境にすることができます。

かたち



いろ



子どもが片付けやすい環境は？

1 子どもにとっては、片付けも遊びになります

「お片付けしようね」と言わなくても、「くるまを駐車場にとめてきてね」と伝えると、遊びの延長になり楽しく片付けができます。



2 写真や絵を貼ると、パズルをしている感覚で楽しく片付けることができます

「うしのおうちは、どこかな？」と子どもと一緒に探しながら片付けることもできます。



遊ぶと楽しい身近な素材は？

1 100円で買える素材も、子どもにとっては、想像性・創造性を育む楽しいおもちゃになります

細いものは、麺類に。透明なものは、氷に。
子どもの想像力で様々なものに見立てられます。



2 梱包材（コンボウザイ）も、おもちゃの素材に変身します



身近な素材を使い「ごっこあそび」で作った『お弁当』カラフルで美味しそう！



実際にご家庭で取り入れられている環境設定をご紹介します！！



キッチンはコーナー（角）になるよう設置しています。空間が仕切れ、物も取りやすく遊びやすくなります。



本は子どもの目線に合わせて、背表紙が視線に入る高さに収納しています。背伸びしなくてもとりやすく自然と子どもが本を手にとってくれる環境になります。



細かいおもちゃも、中身の見やすい収納かごを使うことで、何が入っているのかわかりやすいように設置しています。



出し入れがしやすいので、使いたいものを自分で選び、取り出してあそぶことができます。

今日はクレヨンでお絵かきしよう～

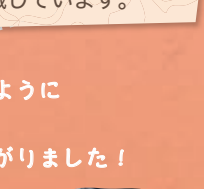
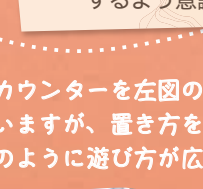


パパのコメント

子どもの興味や関心や発達、またそろそろ飽きてきたかも？というタイミングを見計らっておもちゃを入れ替えたりするよう意識しています。

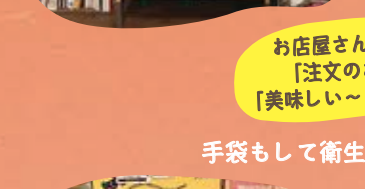


普段は、キッチンカウンターを左図のように壁沿いに配置していますが、置き方を変えるだけで下図のように遊び方が広がりました！



お店屋さんごっこ「注文のお品物できました～」「美味しい～！」

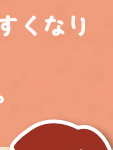
手袋もして衛生管理もばっちりです。



細かいおもちゃや文具は、かごに分けて収納角度をつけてかごを置くことで、中身が見やすくなり子どもにも出し入れがしやすいです。何が入っているかよく見えるのも良い点です。

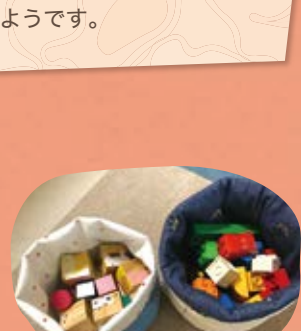
パパのコメント

家ですごす時間も長くなっているのに、子どもたちが、自分であそびを広げやすいように、設置＆収納に工夫をしています。向きや場所を変えるだけでも、子どもたちには新鮮のようです。楽しんで遊ぶ姿に癒されています。



ママのコメント

最初は、並べて置いても落としたり投げたりの繰り返しでしたがいつの間にか元の場所に戻せるようになり、先日もらった新しい車のおもちゃを、自分からここに置きに行ってくれたときは感激でした。



箱にいれると埋もれてしまいがちな細かいおもちゃ。電車・車は棚に置く、ブロック・積み木は布の袋に入れておくなど、種類分けしています。子どもが手に取りやすく、片付けもしやすくなります。布の袋は、まだ歩きが安定しない1歳児にも危なくなく安心です。

パパのコメント

100円で買える収納ケースは、サイズや種類もさまざまあり中身が見えやすく汎用性も高いのでおすすめです。



写真左の二つの入れ物は、ねんどセット。トレーに乗せたまま収納することで一式を持ちだして、そのまま遊びを始めることができます。



取っ手のついたケースも取り出しやすいです。



写真右側の三つの入れ物は、下図のパズルパーツ。大きさを毎に収納しておくと、遊び終わりに子どもも自然と種類分けして片づけるようになります。

専門家の声 VOICE



しくら なおき
栄倉 直喜

小学館集英社
プロダクション
ラーニングセンター
プランナー

子どもは、日常生活の環境の中で、遊具や用具、素材などの様々な物に触れ、それらを手にして遊び、感触を味わい、身近な物や人に好奇心や関心を持つようになっていきます。そうした体験や経験を通して、自ら物や人に関わっていくとする自発性が育まれていきます。大人が、子どもが出会う「環境（玩具など）」の種類、質、量などを工夫すると、子どもは質の良いあそびの体験・経験をすることが出来ます。

お家で過ごすことが多くなった今、家の中で「子どもが過ごす空間や場所」をどのように設定しておくかは、子どもだけではなく大人にとっても、とても大切なことです。子どもの遊んでいる様子を見て、「難しすぎないか？」反対に、「簡単すぎて飽きてしまっていないか？」など、「子どもの目線」になって、家の中の環境を見直してみましょう！子どもに合った環境が作れると、家族で過ごす時間もさらに楽しくなっていくと思います。